

海員春闘 [大衆討議] 長崎支部

船員を確保・定着させるため魅力ある労働条件は必須

長崎支部は水産・内航・旅客船・港湾・陸上部門の計 21 社を担当している。1月6日～2月16日までの大衆討議期間中、訪船や現場集会で現場組合員と意見交換を行い、共通理解を深めた。令和8年度労働協約改定案に対する各部門の主な意見・要望は次の通り。

水産部門

▽漁船で働く魅力を向上するためには安定かつ高水準の労働条件を確立することが必要不可欠。

▽大仲制度の撤廃に関する組合の考え方は理解した。組合員の賃金体系そのものを見直す要求でもあるため、時間をかけてじっくりと協議してほしい。

▽漁業無線局においては、加盟漁船の減少が続き厳しい運営を余儀なくされているが、通信士の確保・育成のためにも大幅なベースアップを期待する。

内航部門

▽内航船員として働く魅力を引き上げるためにも、大幅なベースアップを期待する。

▽今年も物価の変動に併せて食料金が改定されたが、物価の上昇はとどまることを知らないため、今後も引き続き協議し改定してほしい。

▽各社が抱えるさまざまな課題の解決に向け、船団加盟会社であっても個別での要求を検討してほしい。

旅客船部門

▽物価の上昇はとどまっていない状況であるなか、今年も大幅なベア獲得に向け全力を尽くしてもらいたい。

▽司厨部は限られた予算の中で食事を提供しているが、食材の高騰によって買い出しやメニューの決定に苦慮しているため、食料金の増額、改善を図ってほしい。

▽船員不足の波は旅客船部門にも押し寄せており、引き続き要員確保に向けた協議の開催を求めている。また、普通高校を卒業した者や未経験者の採用も増加傾向にあるため、海技免状の取得支援制度を要求してはどうか。

港湾・陸上部門

▽港湾部門においては時間外に頼らざるを得ない賃金体系であるため、時間外がなくとも一定水準の賃金が確保できる賃金体系にできないか。

長崎支部は、大衆討議での現場組合員の意見を踏まえ、3月から始まる労働協約改定交渉に精一杯、取り組む。

「海員だより」